

[様式2]

提案書	
技術分野	⑤地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁、フェーシング等）
提案件名	強度・遮水性に優れた吹付工法によるフェーシング
提案者	清水建設株式会社
<p>1. 技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）</p> <p>本工法は、例えば、福島第一原子力発電所構内の建屋西側の斜面にモルタル等のセメント系材料を吹付した後に、その表面にポリウレア樹脂（タフネスコート）を吹き付けることにより、吹付面の構造的安定性と遮水性の大幅な向上を図り、構内のフェーシング性能が向上すると考える。</p> <p>モルタルの吹付工法は、一般的に用いられている工法である。モルタル吹付面に吹付塗布するタフネスコートは以下の特徴を有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート表面に塗布するだけで粘り強さを大きな変形を生じても形状および耐火力が保持できる。 ・ ひびわれを分散し、局所的なひび割れの集中を抑制する。 ・ 静的荷重だけでなく、地震や津波等の衝撃的な荷重に対しても補強効果が期待できる。 ・ 塗布後、30分程度で強度が発現するため、作業時間に制約のある構内作業に適している。 ・ 腐食や耐候性に優れる（従来の補強材の鋼板や炭素繊維シート等と比べて）。 ・ 本来、上下水道施設の防食防水材として使用されているため止水性にも優れている。 ・ 既に施工している側溝の内側に吹き付けることにより、強度増加・遮水性能向上が図れる。 <p>なお、フェーシングを施した範囲には排水溝およびピットを設けて、汚染水が流入しない独立した経路を構築し、フェーシングした範囲に降る雨水のみを集水させる。ピットに集水した雨水は、水質分析を行い、雨水以外に含まれていないことを確認したうえで海に放流することとする。</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む） タフネスコートは、既に適用実績有り。 ・ 開発・実用化に向けた課題・留意点 ・ その他（特許等を保有している場合の参照情報等） タフネスコートは、防衛大学校・三井化学産資(株)・清水建設(株)の共同開発工法である。 	